

北大病院

国際医療部が本格始動

海外医師へ教育提供も

北大病院(宝金清博院長・94歳)で国際化推進を担う「国際医療部」が本格的に動き出した。8月に専任教員のピーター・シーニン准教授が就任し、11月には初めてフィンランドから内科医師70人を北大病院に招き、糖尿病に関する教育プログラムを提供する。①インバウンド②アウトバウンド③交流―3つの柱を掲げ、国際的知名度の向上や交流の拡大を目指している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。

国際医療部は昨年7月に設置され、部長は病院長が兼務。同病院は、国の新成長戦略や国立大学付属病院長会議の将来像実現化行動計画などを受け、アジアやロシアとの連携・交流を積極的に推進している。